

# 人工繁殖ニホンライチョウの野生復帰に向けた腸内環境の構築

大阪公立大学大学院 獣医学研究科

大阪公立大学大学院獣医学研究科は、動物医療、動物生命科学、公衆衛生分野を包含する学際的な教育・研究を通じて、幅広い視野と深い洞察力、高い倫理観、独創性および指導能力、そして獣医学を基盤とする高度な知識と技術を身につけた人材の育成に力を入れています。

## 【活動背景】

ニホンライチョウは日本の特別天然記念物でありながら、現在その数は1,700羽以下にまで激減し、絶滅が危惧されています。これまでの研究機関における生態解析の結果、野生下のライチョウは非常に特異な腸内細菌叢を構築しており、これらの細菌が主食とする高山植物に含まれる毒性化合物を分解していることが明らかになりました。これらの研究結果から、ライチョウの野生復帰のためには、野生下での生存を可能にしているこの腸内環境の構築が重要であると考えられました。

## 【活動目的】

本活動では、ライチョウにおける野生型腸内環境構築の必要性を提示するとともに、野生復帰個体創出のため飼育繁殖施設で実践可能な野生型腸内環境構築のためのプロトコルの提案、さらには2023年の人工繁殖個体の復帰後の生存評価が目的でした。



## 【助成金の用途・活動結果】

当財団の助成金は、研究に使用する試験消耗品や試薬類、データ解析などの研究費や野外調査のための費用に役立てていただきました。調査・研究の結果、人工繁殖させたライチョウを生息域内に導入する際に、野生下で生き抜くための町内環境整備の必要性と、それに関するプロトコルを提唱できました。今後はこの結果を応用展開し、希少動物保全のさらなる貢献につながることが期待されています。

## 【団体からのメッセージ】

本研究は、中部大学そして東京理科大学との共同研究として実施致しました。当財団の助成金により、生息域内に導入できるニホンライチョウの創出に向け、基盤情報を得る事が出来ました。そして、この成果を基に、野生導入に関わる基本プロトコルを作成しました。まだ、野生に導入したライチョウの生存、生育等の調査はこれから進める必要がありますが、非常に大きな一歩を踏み出せたと思います。